

KiKiの広場

2012年 2月 1日

cafe NO.16
KiKi



子どもたちにとって、先週の雪はさぞ嬉しかったことでしょう。けれども、今各地で雪による被害が出ていることを考えると、これ以上降らないでほしいと祈らざるを得ません。今年は4年に一度の閏年(うるうどし)、夏季オリンピックの年でもあります。2月29日は閏日(うるうび)と言い、英語では、leap day(跳躍の日)と言うそうです。毎年同じ日の曜日が1つずつずれていくのに対し、閏年は閏日以降2つずれてしまう、つまり曜日を飛び越えてしまうことから、そう呼ばれるようになったそうです。「跳躍」という言葉のように、心も身体も弾んで、みんなでいろいろな何かを飛び越え、乗り越えられるといいなあと思います。



2月の予定

14日(火) 休館日



「今月のケーキ」・・・「チョコレートケーキ」 300円



バレンタインっぽいかなとチョイスしました。柔らかく焼き上げたココアスポンジに、カカオ分62%のチョコレートクリームをはさんだ、表面にツヤのあるチョコレートケーキです。

今月のお気に入り・・・「鬼が出てくる本」

～「鬼のうで」「すみ鬼にけた」「鬼ぞろぞろ」「鬼の首引き」「かえるをのんだととさん」「鬼の橋」などなど～

節分にちなんで、鬼が出てくる本を集めてみました。「龍」と同様、「鬼」は昔話になくてはならない存在です。「鬼のうで」は、「御伽草子」や「太平記」でおなじみの切られた腕を取り戻しにくる鬼の話を、赤羽末吉さんが長年にわたり想をあたたため、画魂をこめて創作、絵本化されたものだそうです。

「鬼の橋」は絵本ではなく児童書です。鬼や物の怪と人間が混在していた平安中期に、冥界と現世を行き来するお話ですが、ストーリーはもちろん登場人物がとても魅力的で、子どもだけでなく大人にもぜひ読んでもらいたい、読み応えのある心に残る一冊です。



今月の本棚・・・「マーガレット・ワイズ・ブラウンシリーズ」

～「うさぎのおうち」「おやすみなさいおつきさま」「おぎょうぎのよいペンギンくん」「いぬおこどわり」などなど～

42歳という若さで亡くなった、マーガレット・ワイズ・ブラウン。生前100冊以上の作品を残していますが、死後も数多くの作品が発表されています。「うさぎのおうち」の絵は、仲の良かった「しろいうさぎとくろいうさぎ」の作者ガス・ウィリアムズ。リズムがあって詩のような文章と、思わず触りたくなるような毛並につぶらな瞳のうさぎがかわいくて、抱きしめたくなるような本です。



「いぬおこどわり」は、ユーモアたっぷりの、楽しくてほほえましい犬のお話です。絵は「ひとまねこぎる」のH・A・レイで、動物たちが生き生きと描かれています。



ほっとフレイク

隣のイベントホールで、週3回1時間ほどジャザサイズがあります。若い方から年配の方まで幅広い年齢層のみなさんがたくさん来られていて、毎回ドア越しに、そのパワフルな雰囲気伝わってきます。

ある日、80歳を超えと言われる男性が2人来られて、にぎやかな様子に「こりゃいいねえ、元気がもらえそうじゃね。見学させてもらおうか。」と言われました。時々、外を歩いている人が何をやっているんだろうと、ガラス越しにのぞいておられることもあるし、まあいいかなと思っていると、1人の方が、ドアを開けて中をのぞいてみられました。「こりゃちょっと見学はいけんじゃろう。なんか水着みたいなのがいっぱいおるよ。」それを聞いて、もう1人の方も中をのぞかれました。「ほんとじゃ、こりゃいけん。ここで音楽だけ聞かせてもらおう。」・・・そ、それがいいかも・・・(^_^;)

